

## 【乳幼児】(0歳～6歳まで)

乳幼児は、自分で自分を守ることができません。従って、そばにいる大人が、子供の事故に対する正しい認識を持って、事故を起さないための予防を普段から心がけることが大切です。

乳幼児の事故は、交通事故よりも家庭内で起こる割合が多いという傾向にあります。家庭内での事故を具体的に挙げると、転倒・転落、誤飲・誤嚥、やけど及び溺水などさまざまな例があります。

### 1. 転倒・転落

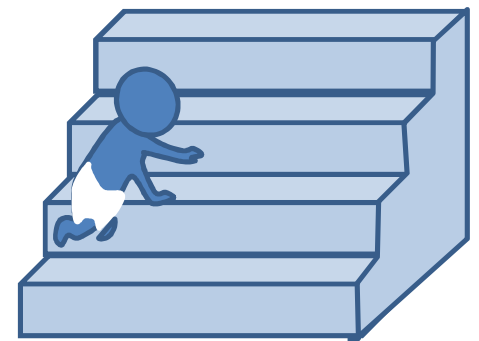
子どもは、成長するにつれて、転倒・転落の危険度が上がってきます。

特に1歳前後は、身体と比較すると頭が大きく重たいため、転倒・転落しやすくなり、家具やテーブルなどの角張った所にぶつke、ケガをする事がよくあります。

また、こうした事故は、大人が目を離したわずかな時間で起きています。家庭内では、子供から目を離さず、何にでも興味を示す子供の特徴を理解して、普段から十分注意を払いましょう。

### ☆ 事故事例

- 遊んでいた2歳の息子が、マットに足を引っ掛けて転倒し、テーブルの角に額をぶつけて負傷した。
- 11ヶ月の娘が、ベビーベッドの柵(70cmから80cm)を乗り越え転落し、顔面を負傷した。
- 9ヶ月の娘が、つかまり立ちをしていたが転倒し、壁に右側頭部を打ち、意識消失した。
- 10歳の息子が、7ヶ月の娘を抱っこしていたところ、誤って床に落とし、頭部を負傷させた。
- 4歳の娘が、自宅の階段約10段目から転落し前頭部を負傷した。



## ☆予防と対策

- 階段には、ゲートを設け入れなくしたり、滑り止めをつけるなどで、しっかり転落回避しておきましょう。
- 必ずベビーベッドの柵は上げておき、柵の高さを身長と変わらないくらいにしておきましょう。
- ベビーベッドの下に、クッション性のあるマットを敷いておけば、万が一落ちた時も、衝撃を和らげることができます。
- ベランダには、踏み台になりそうなものを置かないようにしておきましょう。

※階段の上り下りを覚えた子供は、楽しくて目を離した隙に、すぐに階段のところにいってしまい、落ちれば大ケガをする可能性もあります。また、ベビーベッドに入れて大丈夫だと思っていた子供が、目を離した隙に柵を乗り越えて、頭から落ちてしまう事があるので注意しましょう。

## 2. 誤飲・誤嚥

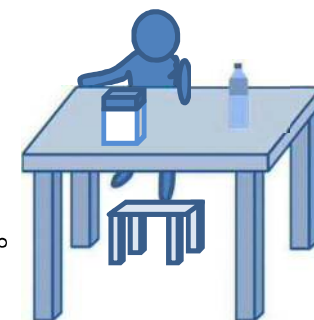
誤飲・誤嚥は、0歳から2歳までの子供に最も多く、この頃になると小さいものが掴めるようになることと、危険という概念がないことが原因と考えられます。

親が目を離した隙に乳幼児は、たばこ・薬品・コイン・電池・ボタンなど、目にはいるものには何でも手を伸ばし口に入れてしまいます。

※乳幼児は、トイレトペーパーの芯(39mm)を通る大きさのものなら、口の中に入れてしまい飲み込む危険性があります。

## ☆事故事例

- 娘二人と入浴中、11ヶ月の娘がベビーソープを口に入れたようで、口の周りが泡だらけになっていた。
- 2歳の娘が、台所のカウンターにイスを使って登り、置いてあった眠剤を数錠飲み込んでしまった。
- 隣の部屋で遊んでいた10ヶ月の息子の様子を見たところ、未使用のたばこを誤飲して嘔吐した。
- 2歳の娘が、コップに入れてあった台所用漂白剤を誤って飲んでしまった。
- 11ヶ月の息子が、玩具のタイヤを飲み込んでしまい、その後、顔面蒼白となり口唇がチアノーゼとなった。
- 2歳の息子が、ジュースの空き缶に入った吸殻を誤って飲んでしまった。



## ☆ 予防と対策

- 子供の手の届く範囲には、口に入る大きさのものや飲んで有害なものを置かないようにしましょう。
  - 誤飲してしまいそうなものは、床から1m以上の高さの場所に保管することが大切です。
  - 洗剤、漂白剤、化粧品などはすべて子どもの手の届かない高い所や鍵のかかる場所に保管するようにしましょう。
- ※この誤飲・誤嚥については、ほとんどの事例が親の過失による事故と考えてください。

### 誤飲・誤嚥事故の原因物質

- ・たばこ ・吸殻 ・灰皿の水 ・硬貨 ・ボタン
- ・ペットボトルのキャップ ・電池 ・小さな玩具
- ・安全ピン ・洗剤 ・医薬品 ・乾燥剤 ・防虫剤
- ・アメ玉 ・ピーナッツ ・お菓子の包み

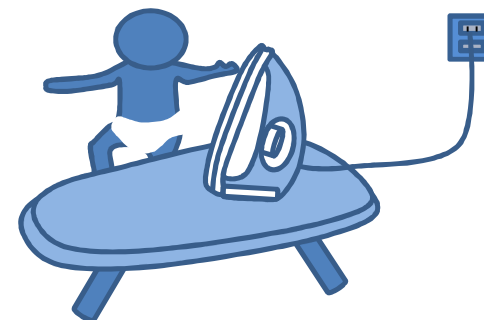
## 3. 熱傷(やけど)

乳幼児は、自分で動けるようになることで行動範囲が広がります。昨日まで届かなかった所に、あっという間に手が届くようになり沸騰したお湯をひっくりかえしたり、熱い味噌汁やカップラーメンをこぼしたり、熱いお風呂に落ちたり、アイロンに触れたりと大人が少し目を離した隙に事故が起きています。

また、見落としがちなのが低温やけどです。子どもの皮膚は、大人の皮膚に比べて薄いため、低い温度でより早く深い熱傷になりやすいです。湯たんぽやカイロなどのそれほど熱くないものでも、同じ場所に長時間触れていると重症のやけどを起こすことがあるので注意が必要です。

## ☆ 事故事例

- 3歳の娘が、誤ってカップラーメンを倒し、熱湯が膝にかかり負傷した。
- 母親が熱湯の入ったコップを誤って落とし、2歳の息子の手にかかり負傷した。
- アイロンを使用中、少し目を離した隙に、1歳の息子が触れてしまい手を負傷した。
- 1歳の息子が、居間に置いてあった石油ストーブに、誤まって手を触れて負傷した。



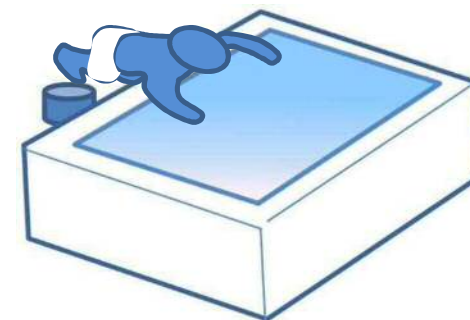
## ☆予防と対策

- 子どもが小さいうちは、テーブルクロスの使用はやめましょう。  
赤ちゃんがテーブルクロスの端を引っ張ると、その上の食器やお湯が身体にかかる危険があります。
- 熱源の直接出ているストーブは、柵などで囲って赤ちゃんが触れないようにしましょう。  
また、ストーブ上のやかんは、危険ですので置くのをやめましょう。
- 電気ポットなどは、チャイルドロックなどがついていない安全な製品を使い、手の届かない場所に置きましょう。
- 炊飯器やポットなどには、高温の蒸気の吹き出し口があるものもあるので注意しましょう。

## 4. 溺水

子供は何にでも興味を示し、風呂場・トイレ・洗濯機の中も覗きたくなります。  
浴槽の高さが、70cm以下では浴槽内に転落しやすく、また、お母さんの洗髪中や少し先に風呂から上がった場合も溺水事故が発生しています。

頭が大きく不安定な乳幼児は、たった洗面器一杯の水に、頭から落ちて溺れることもあるので十分に注意してください。



## ☆事故事例

- 約1～2分家事のために2歳の息子を浴室に残し、再び戻ったところ浴槽内にうつ伏せで浮いていた。
- 母親が体を洗っている間、10ヶ月の娘を浴槽のフタに乗せていたところ、フタがずれて浴槽内に転落した。
- 母親が洗濯中、別の部屋へ行った隙に、1歳半の娘がイスを使って洗濯機を覗き込み、溺れている所を発見した。
- 浴槽の縁に1歳の息子をつかまり立ちをさせていたら、バランスを崩し、頭から浴槽内に落ちてしまった。

## ☆予防と対策

- トイレのドアは、子供が自分で開けられないよう、セーフティーグッズ等を使って工夫しましょう。
- 子供が小さいうちは、お風呂の水を溜めておくのはやめましょう。
- 洗濯機のまわりには、踏み台となるものを置かないようにしましょう。
- お母さんが、洗髪中などで目を離してしまった隙に、浴槽内ですべて溺れてしまうこともあるので注意しましょう。
- 子供を浴室に1人きりにしないようにしましょう。

※大人がたくさんいる時ほど監視が分散して事故が起こりやすくなりますので、注意しましょう。